歯科から　のみこみに不安のある方へ

歯科口腔外科　今井　琴子

近年、日本では人口の高齢化がすすんでおり、それに伴い肺炎が増加傾向にあります。肺炎は、３大死因のひとつであった脳血管疾患を抜いて、死因の第３位にまで上昇しています。

肺炎患者のうち約７割が75歳以上の高齢者であり、更にその７割以上が誤嚥性肺炎です。

〝誤嚥性肺炎〟とは、本来であれば食道に入るべき食物や唾液などが、気管内や肺に侵入する、いわゆる〝誤嚥〟により引き起こされる肺炎のことを言います。

〝誤嚥〟の要因には様々なものがありますが、歯の欠損や入れ歯が合わないことにより咀嚼力が低下する口腔機能の低下や、飲みこみの力が弱くなる、嚥下機能の低下などが考えられます。

誤嚥は、気管内に食物が侵入するために窒息を引き起こすリスクが非常に高く、重篤な病状となることもあります。

当院では２０２１年５月より、入院患者さんの誤嚥性肺炎や窒息事故の予防のために、スクリーニングシートの導入を開始しました。これにより、入院中の食形態を変更したり、誤嚥リスクのある患者さんは専門チームで対応するような環境を整備しております。

食事は身体の健康を支えており、非常に大切なことです。

しかし、嚥下の難しい患者さんが無理に食事をとることは、誤嚥性肺炎や窒息を引き起こす可能性が非常に高く、危険が伴います。

そういった患者さんは鼻や腸から管を入れて栄養をとってもらうこととなりますが、患者さん個々にあわせて必要な栄養素を調整したり、体調をみて栄養の量を調整するなど、細かな栄養管理が必要となります。そのため、〝ＮＳＴ（栄養サポートチーム）〟が介入し、栄養経路を相談して対応しています。

誤嚥のリスクのある患者さんには食事が開始となる前に〝嚥下チーム〟が介入し、内視鏡などを用いて評価、訓練を行うなど、多職種で入院患者さんの栄養管理や嚥下評価・訓練にあたっています。

また、歯科口腔外科では、入院患者さんの口腔内汚染や口腔機能低下を予防するため、病棟から依頼のあった患者さんに対して歯科衛生士による口腔ケアや、病棟看護師への口腔ケア方法の指導などを行っております。

今後、院内を通じて、患者さんの口腔機能や嚥下機能の維持・訓練・評価を行っていく仕組みをより確立していく予定です。

最近では〝オーラルフレイル〟という、口腔内の筋力の低下なども誤嚥を起こす要因のひとつとして注目されています。

そもそも〝フレイル〟とは、全身的な筋力の衰えや身体的衰えを指します。〝オーラルフレイル〟はその中でも会話・食事などの口腔機能の低下を指し、フレイルとも関連が強いと言われています。

最近会話が減った、食事がうまく噛めずに柔らかいものを多く好むようになった、むせるようになった、などの症状があれば注意が必要です。こういった症状を見逃さないためにも、かかりつけの歯科医院をもち、定期的に受診することが大切になります。また、早期発見により、訓練などで症状の進行を抑えることができる場合もあります。

最近飲み込みが気になる、家族がよくむせるようになったなど、気になる症状がある時には、ぜひご相談ください。

入職者

8月1日付

■総務課

送迎運転手　齋藤　仁

患者さんを安全に送迎するようにいたします。

■薬剤センター

薬剤師　横山　世衣

お薬の服用を通じて、患者さんのサポートができるように努めていきたいと思います。

事務　山中　里美

協調性を念頭に置き、自分の行動には責任を持って、日々精進して参ります。